

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2020	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	実務経験 教員担当	
科目名称 [英語名称]	環境教育論 [Introduction to Environmental Education]			アクティブ ラーニング	○		
科目コード	750057	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	遠藤 晃			学位授与の方針 との関連	学科DP4		
授業概要	地球環境問題の解決のためには環境問題を単独で取り扱うのではなく、社会・経済・格差など様々な文脈のなかで環境問題を考える、ESDの視点が不可欠で、学校教育については、現行の指導要領の中にもESDの視点が盛り込まれており、教育実践とその効果が蓄積されている。2015年以降のESD推進を強化するための「グローバル・アクション・プログラム(GAP)」では、5つの優先行動分野の一つ「教育者の育成」では教員養成や現職教員研修などにESDを取り入れることが求めている。本講義では、ESDの視点に立った環境教育の意義を理解した上で、教育現場における幼児や児童を対象とした環境教育の現状・問題点を把握し、環境教育の在り方について自分の考えを構築することを目標とする。						
関連する科目	子どもと自然、環境問題演習、環境問題入門、環境教育演習						
授業の進め方と方法	与えられる課題について、まず、各自調べてきたこと・考えたことなどをクラスまたはグループで出し合い、まとめることを一回の講義の中で行う。						
授業計画	第1回:オリエンテーション/環境教育の歴史と理念 第2回:環境教育からESD(Education for Sustainable Development)へ 第3回:幼児教育・学校教育とESD(学びの視点から) 第4回:ESDと総合的な学習の時間 第5回:地球環境問題1/生態系と生物多様性 第6回:地球環境問題2/気候変動(地球温暖化) 第7回:地球環境問題3/水と食料 第8回:学校教育と環境教育1 / 導入としての体験活動 / 森林環境教育プログラム「薪ストーブ」 第9回:学校教育と環境教育2 / 子どもが主体的になる環境の学習 / アクティブ・ラーニング 第10回:学校教育と環境教育3 / 教科書の中にみられる環境教育 / 森林に関する単元 第11回:学校教育と環境教育4 / 教科書の中にみられる環境教育 / 生物多様性・気候変動・森林・水と食料 第12回:学校教育と環境教育5 / 小学校の教科・単元等をつなぐESDカレンダー / カリキュラム・マネジメント 第13回:学校教育と環境教育6 / 小学校の教科・単元等をつなぐESDカレンダーを作る 第14回:学校教育と環境教育7 / 環境教育の授業を組み立てる 第15回:まとめ						
授業の到達目標	1. ESD・環境教育の理念と意義を理解する 2. 教育現場におけるESD・環境教育の現状を把握する 3. 望ましい環境教育の在り方を構築する 4. 小学校における教科等横断的なカリキュラム・マネジメントのためのESDカレンダーを作成できる。						
授業時間外の学修	毎回の講義終了後に、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す(1時間程度)。また、終了時に提示される課題について、次回の講義までに準備をしていく(1時間程度)。不明な点は、担当教員に随時相談すること。						
課題に対する フィードバック	課題・レポートについては、随時解説する。	評価方法	課題・レポートを評価対象とする。				
テキスト	立教育政策研究所『環境教育指導資料 幼稚園・小学校編』東洋館出版社(1,200円+税)。 また、講義に関する資料プリントを随時配布する。						
参考書	・「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究最終報告所」 (国立教育政策研究所・教育課程研究センター) ・「環境教育指導資料[小学校編]」国立教育政策研究所・教育課程研究センター(東洋館出版社) ・『持続可能な地域と学校のための学習社会文化論』(「ESDでひらく未来」シリーズ)(学文社) ・「小学校学習指導要領解説 理科編」(文部科学省)						
備考	本講義は、環境教育の「理論編」と位置付けられる。実践編の「環境教育演習」を受講するものは受講しておくことが望ましい。						